

令和4年度診療年報

NHO 長崎川棚医療センター

巻頭言

令和4年度の業績集をお届けします。

本集は過去一年間の長崎川棚医療センターの業績と成果を総括したものです。診療科が少ない小さな病院でも一年間の業績をまとめるという作業には数ヶ月の時間が必要でした。過去の業績集と比べて大きな変化はありませんが、それぞれの部門が一年間で成し遂げた軌跡をたどることができます。業績の質や量に関する評価はすぐにはできるものではありません。毎年きちんと業績をまとめるという作業に意味があると考えます。

長崎川棚医療センターは医療の質の向上のみならず、地域のさまざまな問題に対応するために地域医療にも力を注がなければなりません。この業績集を読むと、新型コロナ感染症に苛まれながらも、地域の方々の健康と幸福を支えるために総合的な医療ケアを提供してきたことが伝わってきますが、決して十分なものとは言えません。

令和5年5月8日から新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行したことを契機に、令和5年度に当院は新しい病院機能評価を受審することになりました。また、東彼杵郡の住民を対象に公開講座を開催します。当院が信頼される医療機関となるための、そして地域全体の健康づくりに貢献するための、新しい取り組みです。

この業績集が今後の展望について考えるきっかけになることを期待します。

令和5年9月27日

長崎川棚医療センター臨床研究部長 福留隆泰

診療部

診療部－消化器内科－

■ 診療科の特色

当院は九州地区の神経・筋疾患基幹医療施設ですが、地域の総合病院としての役割も担っており、当科においては消化管疾患、肝胆膵疾患についても積極的に取り組んでいます。

診療科の特色として、検査、手技が多く、上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、内視鏡的ポリープ切除術、内視鏡的逆行性胆管膵管造影、内視鏡的総胆管結石除去術、内視鏡的胆管ステント挿入術、内視鏡的観察下胃瘻造設術などを行っています。

■ 入院診療実績

疾患名	患者数	
	令和4年度	令和3年度
食道癌、胃癌、大腸癌	20	39
肝癌	1	0
胆管癌	6	1
膵癌	6	4
肝障害	7	10
大腸ポリープ	92	83
消化管出血	19	25
良性胆道疾患（胆石等）	23	21
胃、腸疾患	32	38
その他	70	73
消化器疾患全体	276	294

■ 検査、手技実績

検査、手技名	患者数	
	令和4年度	令和3年度
上部消化管内視鏡	449	473
大腸内視鏡	462	485
内視鏡的逆向性胆管膵管造影	14	21
内視鏡的消化管止血術	14	7
内視鏡的食道静脈瘤結紮術	0	1
胃瘻造設術（胃瘻交換）	7(11)	17(9)
内視鏡的大腸ポリープ切除術	100	87
内視鏡的胆管ステント挿入術	4	11
内視鏡的総胆管結石除去術	9	10
内視鏡的イレウス管挿入	1	2
内視鏡的大腸ステント留置術	0	0
内視鏡的異物除去	2	0

■ 将来の展望

現在、当院の消化器内科医は2名で消化器疾患の診療、検査に携わっている状態ですが、地域の要求に対し満足いただける医療を目指して努力しております。

今後もさらなる地域医療への貢献を目標といたします。

（文責：消化器内科 植木 俊仁）

診療部－脳神経内科－

■ 診療科の特色

当院の脳神経内科は、西九州脳神経センターとしての役割を担い、脳卒中、めまい、頭痛、認知症といった一般的な疾患から、パーキンソン病を始めとする神経変性疾患、多発性硬化症、重症筋無力症、ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、多発筋炎、髄膜・脳炎、ジストニア、てんかんなど様々な神経・筋疾患に対する専門的診断治療を行っています。

今年度も新型コロナウイルス感染症の流行が終息することなく、面会や発熱者の受診などについては、まだまだ制約が多い状況が続きましたが、個々の患者に対して最善の治療を目指し、診療を行いました。

外来では、川棚町内を始め、佐世保、有田・伊万里、波佐見、長崎市内、島原など、広い地域を対象として診療を行っています。初診時には、問診・神経学的診察を行った上で、MRI、RI 検査などの画像検査、電気生理学的検査、RI 検査、筋生検などを駆使して診断し、急性期治療、慢性期の管理などを行っています。また、ジストニアや痙性斜頸、眼瞼痙攣に対しては、ボトックス療法を積極的に行っています。パーキンソン病に対しては、長崎県で唯一、脳神経外科と共同して脳深部刺激療法を行っており、術前評価、植え込み手術からその後の管理まで行っています。他県で手術を受けた患者さんでも、必要に応じて、当院で治療を引き継ぐ場合もあります。

入院では、①脳梗塞急性期治療、②パーキンソン病などの変性疾患に対する診断、薬剤調整やリハビリテーションといった治療、③重症筋無力症や多発性硬化症など免疫性神経疾患に対するステロイドパルス療法、大量γグロブリン療法、血漿交換療法などの免疫治療、④進行期神経難病患者の在宅療養支援やレスパイト入院、などを行っています。在宅での人工呼吸器や NPPV 治療もっており、導入時の各調整や指導、その後の管理や定期的なレスパイト入院など、無理なく在宅ケアが開始・継続できるようサポートしています。

病棟カンファレンスなども行い、他職種からなるチームで診療を行っています。特に進行期神経難病患者の在宅支援に関しては、医師、病棟看護師、MSW、リハビリスタッフはもちろん、在宅での訪問診療医、訪問看護師、ケアマネージャー、ホームヘルパーなどを含めたチーム医療が必要であり、退院前カンファレンスを開催するなど密な連携を心がけています。

また、療養介護サービスによる入院もっており、進行期神経難病患者さんに対して、お住まいの自治体での審査が一定の基準を満たせば、長期入院も可能です。人工呼吸器を装着された患者さんも多く入院されており、それぞれの方法で自己表現をされており、長期療養されています。ボトックス療法や ITB 療法などを用いて筋緊張の緩和を図るなど積極的介入も行い、長期療養をサポートしています。

■入院診療実績

疾患	症例数(人)
脳血管障害	47
神経変性疾患	264
(うちパーキンソン病)	(133)
(うち筋萎縮性側索硬化症)	(91)
脱髄・炎症性疾患	10
ニューロパチー	38
ミオパチー	28
神経筋接合部疾患	5
脳炎・髄膜炎	3
てんかん	4
ミトコンドリア病	1
その他	26
小計	426
一般内科疾患	234
合計	660

・主要な検査、治療

検査・治療	件数
筋電図	94
脳波	63
筋生検	0
ボトックス療法	112
血漿交換療法	1
DBS（新規）	41(5)

■ 研修・教育

カンファランス	参加職種	人数	開催
脳神経内科カンファレンス	医師	5	1回/週
脳神経内科・脳外科 合同抄読会	医師	7	1回/週
脳卒中カンファレンス	医師、看護師、リハビリ療法士、栄養士、MSW	5～10	1回/週
病棟カンファレンス	医師、看護師、薬剤師、 リハビリ療法士、栄養士、MSW	15	1回/週
退院前カンファレンス	患者・家族、在宅療養支援関係者、病棟スタッフ	10	適宜

・治験関連

治験	1件
受託研究	5件

■ 将来への展望

社会や地域の高齢化に伴い、一人の患者を取り巻く基礎疾患や社会的背景も複雑化し、総合的な判断が必要となります。長期にわたり、神経難病患者さんをフォローアップすることで、悪性腫瘍や感染症など様々な疾患に罹患されることもありますが、全身的に判断し、引き続き当科で治療継続する場合も少なくありません。パーキンソン病や認知症などの慢性疾患は増加傾向となり、また、これまでは比較的若い世代に後発していた免疫性神経疾患の高齢発症も問題となっています。当科では、様々な神経疾患を中心とした全人的医療を目指し、生涯にわたってかかりつけ医となれるような診療を続けていきたいと考えています。

■研究実績

・競争的研究資金の獲得

(1) 厚生労働科学研究費 有 スモンに関する調査研究班 福留 隆泰

厚生労働省行政推進調査事業補助金（難治性疾患政策研究）

学会

なし

和論文

なし

英論文

1 : Matsumura T, Hashimoto H, Sekimizu M, Saito AM, Motoyoshi Y, Nakamura A, Kuru S, Fukudome T, Segawa K, Takahashi T, Tamura T, Komori T, Watanabe C, Asakura M, Kimura K, Iwata Y. Matsumura T, Hashimoto H, Sekimizu M, Saito AM, Motoyoshi Y, Nakamura A, Kuru S, Fukudome T, Segawa K, Takahashi T, Tamura T, Komori T, Watanabe C, Asakura M, Kimura K, Iwata Y.

Tranilast for advanced heart failure in patients with muscular dystrophy: a single-arm, open-label, multicenter study.

Orphanet Journal of rare diseases.2022 May;17(1)

2 : Keiko Tanaka, Akiko Nagaishi, Makoto Matsui

Autoimmunity to ion channels in neurological diseases–Autoimmunity to aquaporin water channels

Neurology and Clinical Neuroscience.2022 June

3 : Youwei Lin,Satoru Oji,Katsuichi Miyamoto,Tomoko Narita,Mana Kameyama,Hidenori Matsuo.

Real-world application of plasmapheresis for neurological disease: Results from the Japan-Plasmapheresis Outcome and Practice Patterns Study

Therapeutic apheresis and dialysis. 2023 Feb;27(1) 123-135.

4 : Kinoshita T,Matsumoto T,Taura N,Usui T,Matsuya N,Nishiguchi M,Horita H,Nakao K

Public Interest and Accessibility of Telehealth in Japan: Retrospective Analysis Using Google Trends and National Surveillance

JMIR formative research. 2022 Sep 6(9)

5 : Kiyohara T,Fukudome T,Kamio Y,Koike Y,Murota H

Clinical Course of Atopic Dermatitis in an Adult with Amyotrophic Lateral Sclerosis: Aetiological Implications of Voluntary Movements and Dermatitis Severity

Acta Derm-Venereol. 2022 May 102

6 : Narita T,Nakane S,Nagaishi A,Minami N,Niino M,Kawaguchi N,Murai H,Kira JI,Shimizu J,Iwasa K,Yoshikawa H,Hatanaka Y,Sonoo M,Shimizu Y,Matsuo H

Immunotherapy for ocular myasthenia gravis: an observational study in Japan

Ther Adv Neurol Disord.2023 Apr.

(文責：脳神経内科 成田智子)

診療部－循環器内科－

1. 診療科の特色/概要・基本診療指針と展望

循環器科1人体制となり、急性心筋梗塞などの救急疾患には対応できなくなり、また、心臓カテーテル検査も令和3年6月以降は施行できなくなっていますが、高齢化が進むなかで地域住民の循環器疾患有病率は確実に上昇してきています。令和2年度8月より心臓リハビリを開始しました。狭心症に対する冠動脈CTや徐脈性不整脈に対するペースメーカー植込み術に加え、心不全を中心とした循環器領域の診療を行っています。

2. 入院診療実績

入院総数 235名

平均在院日数 17.2日

ペースメーカー植込・電池交換術 9件

3. 研修・教育

研修・資格

日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設

日本循環器学会認定専門医 1名

日本内科学会総合内科専門医 1名

日本心臓リハビリテーション学会 心臓リハビリテーション指導士 1名

教育・講演会

院内スタッフ対象学習研修会(AED、EKG、心カテ、心臓リハビリなど) 随時開催

4. 治験・共同研究

■分担研究

・EXCEED-J

『簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効果的なハイリスク患者抽出方法の確立』 Establishment of Method to Extra a High Risk Population Employing Novel Biomarkers to Predict Cardiovascular Events in Japan

研究責任者:NHO京都医療センター 臨床研究センター 和田 啓道

・PREHOSP-CHF

『慢性心不全患者の新しい再入院リスク評価法の確立 ～新規バイオマーカーと心不全再入院イベントの関連～』 Development of Novel Biomarkers to Predict REHOSPitalization in Chronic Heart Failure

研究責任者: NHO京都医療センター 循環器内科 井口守丈

・PREVENTION-HF

『高齢慢性心不全患者における肺炎球菌ワクチン接種とその後の心不全の臨床経過: 長崎におけるコホート研究』

研究責任者:

京都大学大学院医学研究科 社系健康医学系専攻 予防医療学分野 石見 拓

主たる研究実務担当者:

京都大学大学院医学研究科 社系健康医学系専攻 専門職学位課程 予防医療学分野 吉村 聡志

■治験 : なし

5. 学会・論文など

学会

第132回日本循環器学会九州地方会 2022年6月25日

心窩部痛精査の造影CTで蛇行のみだった脾動脈の動脈瘤破裂を来したエーラス・ダンロス症候群疑いの1例

長崎川棚医療センター循環器内科 二宮暁代

(文責: 循環器内科 二宮暁代)

診療部－代謝内科－

■ 診療科の特色

代謝内科では、糖尿病、パセドウ病、橋本病、下垂体や副腎などの各種ホルモン過剰症および欠乏症の他、高脂血症、肥満・やせなどの内分泌代謝性疾患に対する診療を行っている。

内分泌疾患については、県内でも常勤の内分泌専門医がいる病院は非常に少ないため、地域の先生方から多くの紹介をいただき、専門的な診断や治療を行い、地域における内分泌専門医療機関として役割を果たしていくことを目指している。また、糖尿病診療においてはコメディカルを加えたチーム医療体制の構築を図り、糖尿病合併症の重症化予防に努めている。

外来では、糖尿病患者の診療が中心であるが、甲状腺疾患の紹介患者数も増加しており、パセドウ病・橋本病・甲状腺腫瘍などの内分泌疾患患者の診療も行っている。

糖尿病患者に対しては病態を考慮した治療を行っている。また、インスリン抵抗性の評価、超音波断層法を用いた頸動脈病変の評価、血圧脈波計を用いた非観血的下肢血行動態の評価、神経伝道速度の定量的評価などを併用して、糖尿病の代謝動態および合併症状態の総合的把握にあたっている。糖尿病患者教育に関しては、外来ならびに病棟での糖尿病療養指導に力を入れている。

教育入院については、2～3週間のクリティカルパスを作成して適切な教育入院を目指している。教育入院後は積極的に逆紹介し、当院外来では血糖コントロール困難例・重症例を中心に糖尿病患者の診療を行っている。

糖尿病をはじめとする生活習慣病は年々増加傾向にあるため、糖尿病教育には特に重点をおいており、糖尿病療養指導士(看護師・栄養士)とチームを組んで集団指導(糖尿病教室)、個人指導、糖尿病パンフレットなどによる指導などを行っている。外来にて糖尿病性腎症に対する透析予防管理を開始し、医師・専門看護師・管理栄養士による腎症進展予防のための療養指導を行っている。

■ 入院診療実績

・2021 年度入院患者数 : 73 名

・入院患者主要疾患

疾患名	ICD-10 コード	患者数	死亡数
1) 2型糖尿病	E11*	40	0
2) 甲状腺腫瘍	D440	4	0
3) 胸腰椎圧迫骨折	T0210	3	0
4) 熱中症	T678	2	0
5) 急性腸炎	A099	2	0
6) てんかん	G409	2	0
7) 誤嚥性肺炎	J690	2	0

・主要な検査

甲状腺穿刺吸引細胞診検査件数：9件

■研修・教育

・カンファランス

病棟カンファランス

・教育・講習

なし

■将来への展望

糖尿病診療については、チーム医療を強化し、教育入院の質の向上を図っていききたい。また、外来での透析予防管理の件数増加やフットケアなどの療養指導の充実、外来インスリン導入のための体制づくりを推進していききたい。また、糖尿病性腎症をはじめとする糖尿病の合併症の早期発見と進展防止の取り組みを強化していききたい。

内分泌診療については、地域の専門医療機関として、内分泌疾患の適切な診断と治療を提供できるよう地域の医療機関との連携を強化していききたい。

■研究実績

・競争的研究資金の獲得

なし

・原著論文

なし

・学会発表

なし

・講演

なし

・座長

- 1) <座長> 生涯教育講座「腎保護から心不全を合併した糖尿病性腎症を治療する」（長崎医療センター循環器内科部長 於久幸治先生）東彼杵郡医師会学術講演会「火曜会」、川棚、2023.2.14

（文責：代謝内科 木村博典）

診療部－放射線科－

放射線科医長 中村 悟 令和5年4月27日

[1] 放射線科の特色

放射線科は近年その重要度を増しているCT、MRI、RIなどの画像診断を主な業務とし、胃透視(人間ドック)や消化管造影の一部も施行しています。機器自体は比較的に新しく高機能で、最新鋭の設備と言えます。電子カルテやレポーティングシステムも完備で、理想的なフィルムレス環境です。2名の常勤放射線科医(診断専門医)および1名の大学からの非常勤医師により、ほぼ100%を読影(診断)しています。

[2] CT、MRI、RIの検査件数の推移

令和4年度のCTは3370(共同利用202) (←令和3年度3913 共同利用329)件とやや減少した。

MRIは、2251(共同利用511) (←2357 共同利用623)件とやや減少した。

CT、MRIともに急患などの依頼に対しては対応し易くなっている。

RIは127(共同利用10) (←144 共同利用12)件と減少した。

透視は、152(←158)と減少した。

放射線科外来(院外紹介)は、723(←964)と減少した。

[3] 時間内外画像診断

令和3年1月、岩野先生の自宅に、iPadを設置し、mobile ルーターを使った遠隔読影の環境を設置し、読影および電話での対応を実施している。通信速度がやや遅いが、画像診断に足る画像だった。

また、昨年度から時間内の読影で実施している second opinion で、大学での読影も行っていて、診断に寄与している。

[4] 画像管理加算2

画像管理加算1は、単純写真で請求できるが、当院では胸部単純写真のみ実施し、一部の加算がとれる。

画像管理加算2は、CT、MRI、RIなどで請求されるが、近年、放射線科学会の新たな申請基準が示され、昨年、当院2人の放射線科専門医の連名で、令和4年度の画像管理加算2の申請が受理された。

[5] 放射線科の現状と展望について

MRI、CT、RI、透視件数は、前年度より減少したが、技師スタッフの1名欠員による影響が大きかった。

CT、MRI、RI検査の読影80%以上という画像管理加算2の維持は当分可能と思われる。CTやMRIの全3D処理や再構成は全て放射線技師が作成しており、放射線科医の負担軽減に役立っている。大型医療機器の更新については、FPD(フラットパネルディテクター)が更新され、胸部単純写真や腹部単純写真、骨単純写真などが安定して撮像できるようになった。今後も外来や連携室などの病院各部門とさらに協力しながら、病院の活性化に向けて頑張りたいと思います。

[6] 業績:論文

なし。

診療部－脳神経外科

- (1) 入院症例数 83 名
(2) 手術症例数 34 例

外傷

慢性硬膜下血腫 5

機能外科手術

パーキンソン病・本態性振戦など

脳刺激装置植え込み（両側） 5

脳刺激装置交換 11

重症痙性麻痺治療薬髄腔内持続注入用植え込みポンプ設置（ITB） 1

てんかん

迷走神経刺激装置植込 1

迷走神経刺激装置交換 2

水頭症手術

シャント手術 1

その他

創傷処理 8

- (3) 剖検数 0

I. 論文業績

- 1) Asymmetric epileptic spasms after corpus callosotomy in children with West syndrome may be a good indicator for unilateral epileptic focus and subsequent resective surgery. D. Uchida, T. Ono, R. Honda, Y. Watanabe, K.Toda, et al. *Epilepsia Open* 7: 474-487, 2022
- 2) わが国におけるてんかんセンターの実情と課題. 岩崎真樹、中川英二、遠山潤、…、戸田啓介. *てんかん研究* 40: 530-540, 2023

(文責：脳神経外科 戸田 啓介)

診療部－外科－

1.診療科の特色／概要・基本診療指針

当科では鏡視下手術(腹腔鏡、胸腔鏡)・小切開手術を主体にした低侵襲手術、高齢者・病弱者に対する十分な術前管理に基づいた安全性の高い手術を基本とします。領域は甲状腺・乳線・肺・消化管(胃、小腸、大腸、直腸)・肝臓・胆嚢・膵臓のほか、下肢静脈瘤、難治性神経疾患に対する喉頭気管分離術など幅広く行うことを方針としています。癌腫の診療には、各臓器別に診療ガイドラインからエビデンスに基づいた治療を選択するようにしています。また、化学療法や癌緩和医療など、手術以外の分野の診療も積極的に行っています。

2.入院診療実績

令和4年度には370名入院され、外科・呼吸器外科で112症例(全身麻酔99例、腰椎麻酔3例、局所麻酔10例)の手術が行われました。

●臓器別手術症例数

	全身麻酔	腰椎麻酔	局所麻酔
胃	6	---	---
小腸	3	---	---
結腸、直腸	45	---	---
胆嚢、総胆管	20	---	---
ヘルニア	17	3	3
呼吸器	5	---	3
その他	3	---	4
総数	99	3	10

※腹腔鏡下手術…56例

3.研修・教育

入院患者さんの栄養管理を目的とした研修プロジェクトである TNT 研修会に積極的に参加し、ライセンスの習得を行っています。また、外科的疾患に対する知識を深めるため教育集会などを病棟中心に定期的を開催しています。

4.論文

Simultaneous staining of Ki-67 and chromosome 8 in invasive ductal carcinoma:association with prognosis

Kenji YAMADA, Ryusuke TERADA, Osamu HIGUCHI, Takayuki TOKUNAGA, Hikaru FUJIOKA

ACTA MEDICA NAGASAKIENSIA 66: 7-11, 2022

(文責：外科 寺田 隆介)

診療部－整形外科－

令和4年度は整形外科医2名の診療体制であった。

長崎大学病院から月・水曜日に各1名の応援体制であった。

手術は82例で、大腿骨頸部骨折が主であった。

入院1日平均患者数は17.0人と、昨年度の14.1人より増加していた。

外来1日平均患者数は12.6人と、昨年度の13.4人より減少していた。

また、大きな医療事故はなかった。

(文責：整形外科 藤本 勝也)

診療部－総合診療内科

■診療科の特色

当科は2019年6月に新設されました。科のモットーとしては、フットワークを軽く、全体を見渡しながら、現場ニーズに合わせた診療を心がけています。診療科にかかわらず内科全般の診療をおこなっています。特に高齢者人口の増加に伴い、複数の疾患を抱える患者さんが増加し、このような患者さんの診療、問題解決を得意としています。原因のわからない発熱、体重減少といった診断確定していない患者さんへの診療も行います。院内感染対策チームへ参加し、感染症対策への取り組みを行っています。

■スタッフ

○常勤2名

専攻医1名

○小児科兼任常勤 1名

■教育、研修

○専門医

日本内科学会 総合内科専門医1名

日本プライマリケア連合学会 家庭医療専門医1名

○認定医

日本内科学会 認定内科医2名

日本医師会 認定産業医1名

■入院診療実績

○2022年度入院患者数460件（入院サマリーより）

入院患者層は、65歳以上の高齢者がその大半を占めており、入院となる疾患に変化はない。入院患者数は、昨年度より減少はみられるが、これについては1-2月にかけて発生したCOVID19の院内クラスターによる入院制限の影響をうけたものと考えられる。

上記入院診療以外にも、整形外科、外科、皮膚科で入院されている患者さんで内科疾患のサポートや退院調整（家族説明や退院先の相談）必要な場合、JNPさんと協力のもと併診を行っている。

■外来診療実績

地域連携室を介し紹介状を持参される患者さん、当日紹介状を持たずに受診される患者さんの初診外来の役割を担っている。また COVID19 感染症は、いまだ終息はなく、旧 6 病棟に発熱外来を設置し、当院を受診される発熱患者の窓口として発熱患者の初療を継続しておこなってきた。発熱外来は、小児科兼任で小森医師を中心に今年度も小児、成人発熱患者の外来初療を担っていただいた。（救急車対応も含む）成人発熱患者で入院が必要な場合には、当科で診療を引き継ぐ診療を、継続しておこなった。

■将来への展望

COVID19 感染症は、5 類感染症へと移行となるが、流行状況を配慮しながら発熱外来の継続とそこからの入院患者を中心に診療を継続していく。入院となった疾患のみならず、背景疾患を考えながらの治療方針の決定、アドバンスケアプランニング、ポリファーマシー（多剤内服）問題に対し多職種カンファレンスを開催し、取り組んでいく。また、長崎医療センター総合診療科から協力依頼のあった「舌表面画像の深層学習解析による急性虫垂炎の新規診断法の開発と検証」の研究は引き続き継続して行っていく。

■研究実績

○競争的研究資金の獲得

なし

○原著論文

なし

○学会発表

第 340 回 内科学会九州地方会

○吉原 聖智，川原 知瑛子，大野 直義

めまい、嚥下機能障害を主訴に診断に至った外耳道癌の 1 例

（文責：総合診療内科 大野 直義）

診療部－小児科－

新型コロナ流行にあたり、小児科診療は閉診している

新型コロナ感染症のPCR検査などは、0歳児から受け入れている

定期ワクチン、乳児健診などの受け入れも困難となっている

担当医師の令和5年3月退職を以て、終診となる

(文責：小児科 小森 一広)

診療部－皮膚科

1. 診療科の特色

当診療科では、患者様の皮膚一般の診療を行なっています。近隣の開業医の先生方からのご紹介を中心に、重症アトピー性皮膚炎などの湿疹皮膚炎群、コントロール不良の尋常性乾癬患者への外用、内服、光線治療を施行しています。

入院治療としまして、皮膚良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍の手術、蜂窩織炎、带状疱疹等の皮膚感染症に対する治療も施行しています。また、院内では他科入院中の患者様の皮膚真菌症、褥瘡、薬疹、点滴漏れなどの診療依頼があり、セーフティネット的な役割を担っています。

これからも当科は地域医療、院内診療の円滑化のため尽力する所存です。

2. 入院診療実績

入院総数 90 件

平均在院日数 23 日

外来光線数

131 件 (340 点/回)

手術件数

外来 : 63 件 (前年 : 73 件)

入院 : 71 件 (前年 : 64 件)

(文責 : 皮膚科 清原 龍士)

看護部－理念・基本方針－

【理念】

私たちは“よりよく生きる”を支える看護を提供いたします

【基本方針】

1. 患者に信頼される安全で安心な看護を提供します
2. 知識・技術・人格を磨き、自律し実践できる看護師を育成します
3. 各医療チームと協働し、患者中心のチーム医療を推進します
4. 看護・教育・研究を通して地域に貢献します
5. 組織の一員として病院経営に参画します

看護部-目標評価-

看護部長 岡 ルミ

【スローガン】

看護の原点にかえる ～考える・伝える・確認する・行動する～

【目標】

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画
3. 外部評価（病院機能評価）受審に向けたチーム医療の推進
4. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成

【評価】

目標1・4については看護師師長会による「倫理観醸成推進」、副看護師長会による「チームリーダー育成」「日々リーダー育成」のグループを作り活動した。看護の質向上のために必要な倫理感性については、倫理的感性尺度・行動尺度を用い、客観的評価を行った。その結果「尊厳の意識」について有意差がみられたため、各部署で改善に向けて取り組みをおこなった。倫理的問題についてカンファレンスは開催できているが、その問題がどのように患者の尊厳にかかわっているのかを十分に検討できていない事例もある。倫理的問題に気付いても自ら発信できるスタッフが少ないため、今後も倫理的問題を考える機会を作り、倫理的感性を育めるよう継続した取り組みが必要である。また、固定チームナーシングの体制が整ってきているため、副看護師長会を中心にチームリーダーや日々リーダーの育成に取り組んだ。

それぞれのリーダーについて評価表を活用し、自己評価・他者評価を行い結果をフィードバックすることで、少しずつではあるが、リーダーの役割を発揮できるようになってきた。

目標2については看護師長を中心にベッドコントロールを行い、施設基準を満たすことができていた。急性期一般病棟・地域包括ケア病棟・障がい者病棟が円滑に運用できるよう今後も医師や経営企画室と協働し取り組んでいく。

目標3については各部署において全項目について自己評価を実施した。今後は、院内でそれぞれの領域についてチーム医療が実践できているかを検討し、課題については病院全体で改善に向けて取り組む必要がある。

看護部－3階病棟－

病棟師長名 蛭原 勇治

基本方針

1. 入院時より退院後の生活を見据えた個別性のある患者・家族指導を実施します
2. 患者、家族が「3階病棟へ入院してよかった」と感じられるよう、基本的なことを確実に実施し、清潔ケアを徹底します
3. 教育及び教育支援を行い看護職者として常に学習・自己研鑽を積み成長し続けます

目標

1. 経年や能力に関係なく統一した同じレベルの看護を提供できる
2. 入院時から退院を見据えた退院支援、患者・家族指導を行えることができる
3. 看護必要度基準超えを意識した円滑なベットコントロールを行うことができる
4. 職員が看護のやりがいを感じることができる職場環境作りを行う

I. 病床数構成 総病床数：60床

外科、循環器内科、脳神経外科、整形外科、消化器内科

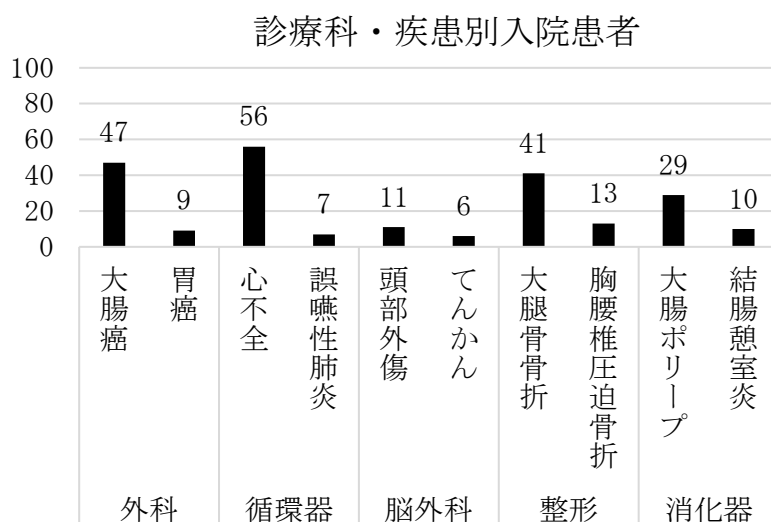
II. 患者の動向（2022年度）

入院患者数	816名
一日平均患者数	50.09人
平均在院日数	18.42日
平均年齢	74.6歳
病床利用率	83.5%
CP使用率	27.6%
看護必要度	29.36%
手術件数	212件

III. 看護職員数（2023年4月1日現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	26名
看護助手	1名

IV. 主な疾患・治療・検査



V. 看護

1. 学習会やシミュレーションを実施し、経験年数に関係なく必要な看護が提供できるよう、知識や技術習得に努めた。また、クリティカルパスや処置手順を見直し、統一した看護が提供できるよう取り組んだ。
2. 医師や地域連携室、理学療法士など多職種で情報を共有し、入院時より退院に向けて必要な支援や方向性の確認を行った。患者教育パンフレットの見直しを行い、退院後の生活をイメージできるよう患者・家族指導を実施した。
3. 地域包括ケア病棟や外来、地域連携室と協力し病床運営を積極的に実施した。その中で看護必要度の施設基準超えを意識した調整を実施することができた。また看護必要度の評価精度の向上のため学習会や定期的な監査を実施し、評価漏れは減少し、施設基準超えを達成できた。
4. 立場に関係なくコミュニケーションが取りやすい職場風土づくりを行った。また、超過勤務削減のため残務確認表を活用し業務を調整できた。年次休暇についても平均 11 日/年取得することができた。また業務改善を実施し、業務の効率化を行ない、委員会や研修準備など出来る限り活動時間の割り振りを行った。

VI. 研修・講習会等

- ・蛭原勇治（看護師長）：認定看護管理者教育課程ファーストレベル
- ・松永亮太（副看護師長）：認知症ケア研修

看護部－4 階病棟－

病棟師長名： 穎川俊也

基本方針

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画
3. 看護の質の向上に寄与できる自律した人材の育成

目標

1. 固定チームナースングを定着させ、患者さんの「自分はどうしたい」、家族の「患者にこうしてあげたい」を実現させる退院支援・看護の提供ができる
2. 病床利用率 96%以上(57.6 床以上)、一般病棟転棟患者割合 6 割未満、在宅復帰率 72.5%、地域包括ケア看護必要度評価 12%を意識した病床管理ができる
3. 業務内容の見直しを行い、業務改善の推進と業務の効率化を図る

I. 病床数構成 総病床数：55 床

2022 年 5 月から 60 床へ増床

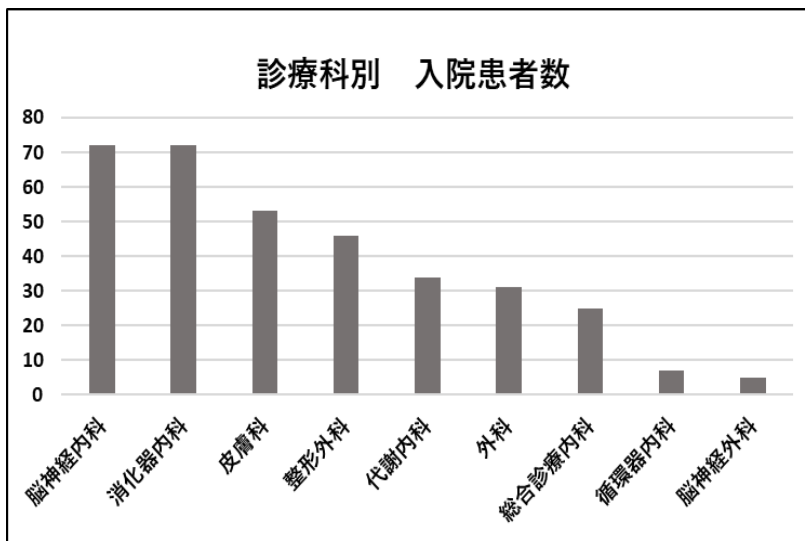
II. 患者の動向（2022 年度）

入院患者数	345 名
一日平均患者数	55.0 名
平均在院日数	24.0 日
平均年齢	72.0 歳
病床利用率	91.6%
看護必要度	19.3%
在宅復帰率	82.4%

Ⅲ. 看護職員数（2023年4/1現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	24名
看護助手	2名

Ⅳ. 主な疾患・治療・検査



Ⅴ. 看護

1. 患者、家族の意向確認については転入時に退院先や希望の確認を行い、チーム内・チーム間で情報共有ができるように記載場所・内容の統一を行った。転入後1週間以内にカンファレンスを実施し患者や家族の希望についても確認を行った。
2. 地域連携室、一般病棟看護師長と毎日病床会議を実施。地域連携室やリハビリなどと週に1回多職種カンファレンスを開催、退院困難事例などの検討を行った。病床利用率91.7%、一般病棟転棟患者割合52.1%、在宅復帰率83.6%、地域包括ケア看護必要度評価は19.8%であった。
3. 看護補助者との業務内容の検討を行いカンファレンスの時間の確保、環境整備の徹底などの業務改善を行った。昨年度から開始している「プライマリータイム」を継続し、受持ち看護師が意図的に患者や家族と退院先や今後の希望について検討を行う時間の確保している。

Ⅵ. 研修受講

額川俊也(看護師長)

2022 年度看護補助者の活用促進のための看護管理研修(長崎県看護協会)

松藤裕太(副看護師長)

令和 4 年度長崎県保健師助産師看護師実習指導者講習会(長崎県看護キャリア支援センター)

宮田円(副看護師長)

令和 4 年度独立行政法人国立病院機構認知症ケア研修

令和 4 年度看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修 (独立行政法人国立病院機構)

看護部－6階病棟－

病棟師長名 今里 純子

基本方針

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画
3. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成

目標

1. 患者にとって“より良く生きる”とは何かを考え、患者・家族の思いに寄り添い、患者・家族から得た情報を共有し、根拠に基づいた看護を提供することができる。
2. スタッフ一人ひとりが経営改善においてできることを考え行動できる。
3. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成

I. 病床数構成 総病床数： 55 床

一般病床 50 床 COVID-19 病床 5 床

II. 患者の動向（ 2022 年度）

入院患者数	915 名
一日平均患者数	41.7 名
平均在院日数	18.0 日
平均年齢	73.3 歳
病床利用率	76.0%
CP 使用率	0%
新型コロナ陽性患者数	48 名
新型コロナ疑似患者数	468 名

Ⅲ. 看護職員数（2022年4月1日現在）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	32名
期間職員	1名
業務技術員	3名

Ⅳ. 主な疾患・治療・検査

2022年4月より総合診療内科、脳神経内科の混合病棟となり、主にパーキンソン病やALS等神経筋難病患者の診断・加療や、リハビリ目的、パーキンソン病のDBS調整などの入院受け入れを主に行っている。また、家族の介護負担を軽減するためにレスパイト入院受け入れをおこなっている。昨年同様、新型コロナウイルス陽性患者・疑似患者の受け入れも行っている。総合診療内科では、尿路感染症、肺炎、心不全など高齢患者の入院受け入れが多い。2022年10月より障害者施設等7：1入院基本料に変更となり長期入院患者が増えた。

Ⅴ. 看護

1. 固定チームの見直しを行い、チームで患者に関わることができるよう体制を整えた。また、多職種カンファレンスを定着させ、事例検討を行い、患者・家族の思いに沿ったケアについて検討し、実践に繋げることができた。
2. 病棟会議で業務改善について検討を重ね、勤務形態の見直し、12月から4人夜勤を3人夜勤に変更し、日勤人員の確保を行った。その結果、日勤の超過勤務削減ができた。またタスクシェアリングを行い、計画的にシャワー浴ができるよう業務改善し、清潔ケアの充実に繋げることができた。
3. レベルⅠ～Ⅲ研修生においてはチームで育てる環境を整え、意図的に受け持ち患者を選定、事例検討を行い看護過程の展開につなげることができた。また、院外研修を受講し、病棟での学習やケアの改善に努めることができた。

Ⅵ. 研修受講

- ・今里純子（看護師長）：令和4年度障害者虐待防止対策研修
- ・平山将（副看護師長）：令和4年度医療安全対策研修Ⅰ、令和4年独立行政法人国立病院機構認知症ケア研修
- ・大平千絵（副看護師長）：令和4年度院内教育担当者研修プログラム
- ・中野史子：令和4年度入退院支援に関する実践力向上研修
- ・高橋奈央：2022年度感染管理認定看護師教育課程修了

看護部－8 病棟－

病棟師長名 酒井 真澄

基本方針

1. 患者家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画
3. 外部評価受審に向けたチーム医療の推進
4. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成

目標

1. ACP、意思決定支援をすすめる
2. 安全性の厳守
3. 虐待防止に関する知識の向上

I. 病床数構成 総病床数：60 床

(療養介護サービス対象病床：54 床)

II. 患者の動向（2022 年度）

入院患者数	6 名
一日平均患者数	58.3 名
退院患者数	23 名
平均年齢	66.1 歳
病床利用率	97.2%
手術件数	2 件
人工呼吸器使用数	45.9
療養サービス対象数	51.8

Ⅲ. 看護職員数（2023 年度 4/1 現在数）

看護師長	1 名
副看護師長	1 名
看護師	39 名
療養介助専門員	14 名
療養介助員	1 名
業務技術員	2 名
看護助手	1 名

Ⅳ. 主な疾患・治療・検査

筋ジストロフィー：25 名 ALS：15 名

パーキンソン：13 名

上記以外の神経筋難病：12 名

その他：12 名

Ⅴ. 看護

1. ACP、意思決定支援をすすめる

- ・患者のその人らしさを大切にするために、残存機能の変化をいち早く察知し、何ができるのかを常に考え、患者の思いに寄り添った看護を実践できるように他職種と連携し取り組んでいる。
- ・嚥下状態や呼吸状態の変化に応じて延命処置に関する重大な意思決定をする段階にある患者に対して、患者が思いを表出できる場を作れるよう緩和ケア認定看護師に積極的に介入してもらっている。

2. 安全性の遵守（医療安全・感染対策の根拠ある確実な実践）

- ・人工呼吸器チェック時の指差呼称の徹底や、患者のベッドサイドを離れる際のテストコール実施が定着してきているため、人工呼吸器に関するインシデントは 3 件、ナースコール設置に関するインシデントは 0 件と確実に件数は減少している。

・1 患者あたりの手指消毒使用量は平均 31.2 回と常に 30 回以上を維持することができた。感染対策リンクナースがリーダーシップを発揮し、感染に関する意識を高めるようにその都度個々に指導をしている。

3. 虐待防止に関する知識の向上

・2 回／年接遇チェックリストを用い自己・他者評価を実施した。虐待防止の視点からスタッフ同士の言動で気になる点は注意しあえる職場風土の醸成につなげている。

VI. 看護研究・学会発表・研修受講

植松弥生（看護師）：国立病院総合医学会 2022 シンポジウム『筋ジストロフィー病棟の看護師として日々感じること』

濱田藍（看護師）：療養介護サービス研修

奥野紫織（看護師）：認知症対応力向上研修

前海孝徳（副看護師長）：障害者虐待防止対策セミナー

酒井真澄（看護師長）：メンタルヘルス・ハラスメント防止研修

看護部－手術・中材－

看護師長名 松尾多美子

基本方針

- 1.各部署と連携を図り、安全で質の高い手術医療を提供する
- 2.安全で専門性の高い内視鏡検査・治療を提供する
- 3.院内で使用する医療器材を管理し、安全で確実な物品供給を行う

目標

1. 手順書を確認することにより個人差なく手術看護、検査介助が行うことが出来る
2. 専門知識の維持更新により、看護実践力を向上に努める
3. 病棟応援など病院の患者への看護ケア提供の向上に貢献する

I. 病床数構成 手術室 3 室 (BCR1 室) 内視鏡室 2 室

II. 患者の動向 (2022 年度)

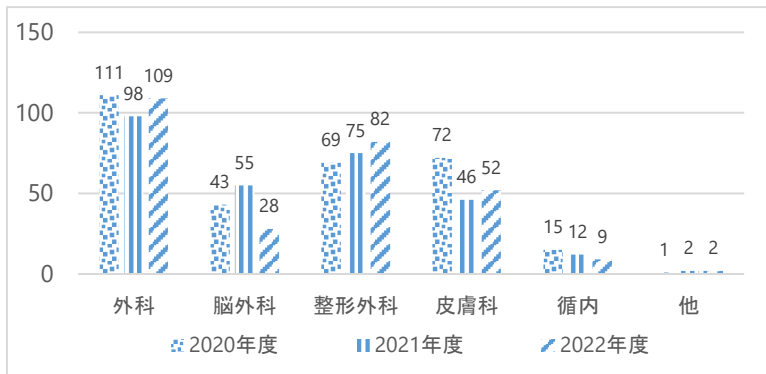
月平均手術数	23.4 件
手術平均年齢	70.2 歳
緊急手術件数	26 件
全身麻酔症例数	119 例
麻酔科麻酔件数	78 件
自家麻酔症例数	203 件
月平均内視鏡検査数	76.5 件
緊急内視鏡検査数	40 件

III. 看護職員数 (2022 年 4/1)

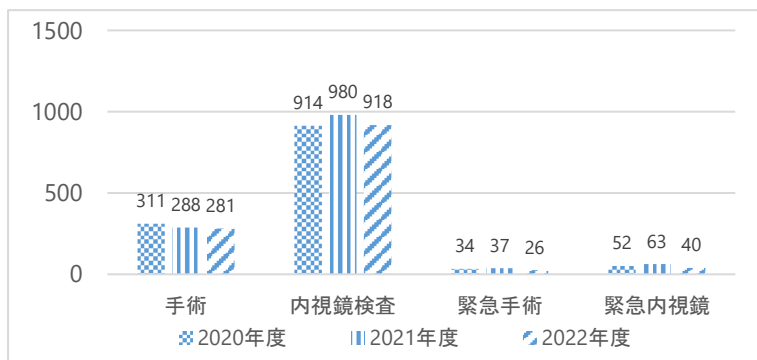
看護師長	1 名
副看護師長	1 名
看護師	8 名
非常勤看護師	1 名

IV. 手術・検査実施件数

1. 診療科別手術件数推移



1. 手術・検査件数推移



V. 看護

1. 手順書を確認することにより個人差なく手術看護、検査介助が行うことができる

1) 手術手順書・内視鏡検査手順書を随時更新し、直接介助のみでなく外回り業務手順の追加を行い、介助前に手順書を確認することで準備・介助とも個人差は減少している。症例数の少ない手術や検査は手順書に沿ってシミュレーション教育を行い、緊急への対応に備えている

2. 専門知識の維持更新により、看護実践力を向上に努める

1) 感染防止の為、院外研修への参加はなかった。部署学習会は術中保温、体位固定、内視鏡検査手技など実践につながる専門知識・技術の習得を図った

3. 病棟応援など病院の患者への看護ケア提供の充実に貢献する

1) 自部署業務以外はトリアージ・発熱外来対応、病棟応援を積極的に行い、入院・外来患者の診療補助・看護ケアの充実に貢献している。今年度は5階病棟を使用したPCR検査結果待ちの入院患者の対応をも行い、病棟の病床管理への協力も行った。

救急外来夜勤勤務時も救急外来対応時間以外は病棟の患者ケアの応援を行っている

VI. 看護研究・学会発表

今年度なし

コロナウイルス感染症対応職員派遣（東京）

福島裕樹（7/19～8/31）

看護部－外来－

看護師長名 毛利 由加

基本方針

1. 予約診療を基本とし、各診療科・地域連携室との連絡・調整を密に行い迅速でスムーズな診療が受けられるよう配慮する。
2. 常に患者へ目と心に向け、細やかな対応による診療介助を行い、患者の不安や苦痛軽減に努める。
3. 患者のプライバシーが守られるよう、環境への配慮・個人に関する情報の管理を徹底する。
4. 患者に安心して気持ちよく受診していただけるよう清潔で安全な環境整備に努める。
5. 外来で行われる検査や手術についてクリティカルパスやパンフレットを使用し、患者の十分な理解と納得が得られ、安全で確実な看護実践を目指す。
6. ネットワークを活用し地域に根差した質の高い医療の提供を目指す。

目標

1. 倫理カンファレンスの定着により、倫理感性の醸成及び意思決定支援の推進を図る。
2. 他部門、多職種との連携を強化し、在宅支援、継続看護につなげる。
3. 根本原因分析の実施により医療安全に対する意識の向上を図る。
4. 感染予防策の強化による院内感染の防止を図る。
5. 外来における看護記録の必要性を理解し、看護記録の充実及び強化を図る。

I. 診療科構成

脳神経内科、循環器内科、消化器内科、代謝内科、総合診療内科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、小児科、放射線科、歯科、乳腺外科、呼吸器内科

II. 患者の動向（2022年度）

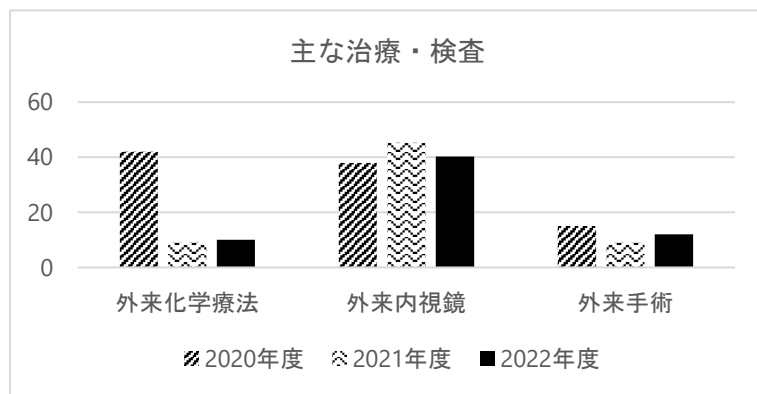
1日平均外来患者数	116.3名
新患者数（平均）	305.0名

延患者数（平均）	2356名
紹介患者数（平均）	168.2名
逆紹介患者数（平均）	215.7名
救急患者数（平均）	247.4名
救急車台数（平均）	51.6件

Ⅲ. 看護職員数（2023年4月1日現在数）

看護師長	1名
副看護師長	1名
看護師	5名
非常勤看護師	5名
外来クラーク	2名
看護助手	1名

Ⅳ. 主な疾患・治療・検査



外来化学療法（平均）	0.8件
外来内視鏡（平均）	40.3件
外来手術（合計）	12件
皮膚生検（合計）	111件

V. 看護

1. 外来患者の意思決定支援について倫理カンファレンスを4回実施し情報共有、計画的な支援につなげた。
2. 病棟からの介入依頼12件/年。退院後初回受診患者の55%に退院後の生活状況確認し継続介入につなげている。看護カンファレンスを開催し、ケアの方向性について検討を行った。また看護師のIC同席の推進を図った。
3. インシデント発生件数15件、インシデントカンファレンス100%、SHELL分析を2回実施し再発予防、体制強化に努めた。
4. 適切なタイミングでの手指消毒の実施、個人防護具の着脱訓練を行い、手指消毒剤使用量目標500ml/月とし、75%（平均使用量504ml/月）が達成できた。
5. 病状説明に同席及び患者家族の反応を記録することを強化し、救急外来での記録記載率は45%であった。

VI. 研修受講

毛利由加（看護師長）：令和4年度病院経営研修

看護部－訪問看護ステーション－

看護師長名 松本 深雪

基本方針

1. 利用者・ご家族の皆様の思いを尊重し、安心・安全で良質な訪問看護を提供します
2. 養気軒の精神で、利用者・ご家族中心の全人的ケアを提供します
3. 利用者・ご家族の権利・維持を尊重し、同意に基づき良質な訪問看護を提供します
4. 常に知識・技術・人格を磨き、自己研鑽に努め、明るく温かで安心がもてる看護を提供します
5. 医療・保健・福祉など地域関係機関との細やかな情報交換に努め、地域に開かれたステーションを目指します

目標

1. 利用者・家族の思いや希望を汲み看護計画をもとに安全に実践し評価できる
2. サービス内容の定期的評価を行い、時間内で業務が完結し超過勤務が削減できる
3. 訪問看護の実践で倫理的な視点を持った実践者を育成し、利用者のサービス維持ができる

I. 利用者総数 25名

(指定申請)

指定訪問看護事業者・介護保険指定事業者難病医療費助成・生活保護医療機関指定
指定自立支援・労災保険指定訪問看護

II. 患者の動向 (2022年度)

利用件数	2451件
1か月平均利用件数	204件
1か月平均利用者数	22名
1か月平均訪問看護件数	173件
1か月平均訪問リハビリ件数	31件
新規利用者数	12件
緊急訪問	9件
死亡利用者数	3件
退院時共同指導加算	3件
退院時支援指導加算	6件
ターミナルケア	0件

Ⅲ. 看護職員数（2023年3月31日現在数）

看護師長	1名
看護師（登録ナース）	8（6）名
非常勤看護師	1名
事務	1名
理学療法士・作業療法士	各1名

Ⅳ. 主な疾患

1. 悪性腫瘍（大腸癌、肺癌、胃癌、上顎癌）
2. 神経難病（パーキンソン病、多系統萎縮症）
3. 脳血管疾患（脳梗塞、脳出血）
4. 心疾患（慢性心不全、高血圧）
5. 呼吸器疾患（間質性肺炎、気管支喘息）
6. その他（糖尿病、認知症）

Ⅴ. 看護

1. 利用者の状態に応じ、意向の確認をするよう働きかけ、できるだけタイムリーに看護計画に反映できるようにした。過去の情報をアップデートし、院内外の連携業種と共有し看護に繋げることができた。
2. 利用者の状態に応じサービス内容を見直し提案している。訪問スケジュールの調整、記録時間の確保を行うことで超過勤務が減少した。
3. リハスタッフと共に倫理・患者カンファレンスを実施したり、終末期患者を受け入れ、緩和ケア認定看護師と終末期看護の支援や自宅での看取りについてスタッフ間で検討・共有できた。また、新任訪問看護師育成プログラムを作成し、定期的なフォローアップしながら2名の育成ができた。教育パスとして改訂し、運用して人材育成につなげている。

Ⅵ. 研修受講・講義・連絡会

- ・東彼3町担当者によるACP動画活用検討会による助言
- ・嬉野医療センター附属看護学校

在宅看護論講義

- ・スキルアップ研修「ターミナル看護（非がん）地域で支える認知症～妻が夫を看取りました～」
- ・管理者連絡会「アンガーマネジメント」
- ・令和4年度在宅医療推進セミナー

薬剤部－薬剤科－

薬剤部長 阪元 孝志

1. 概要

薬剤部目標は、①医薬品の適正使用及びチーム医療の推進（病棟薬剤業務の充実、薬剤管理指導、特にハイリスク薬及び麻薬服用患者への指導の充実、退院時薬剤情報管理指導件数の充実、外来患者に対する薬学的管理の充実）②医療安全の推進（ヒヤリ・ハット事例の収集と対応策の検討、疑義照会事例、副作用症例の収集及び情報共有並びにプレアポイド報告の推進）③病院経営への参画（後発医薬品の使用促進、医薬品在庫の適正化、退院時薬剤情報連携加算への取り組み、薬剤総合評価調整加算への取り組み、がん患者指導管理料「八」の算定）④年次休暇取得の推進（ワークライフバランスを充実させる）掲げ、業務改善・質の向上につながる取り組みを行った。

2. 調剤業務

（1）内用・外用

外来患者については、院外処方を原則としていることから、薬剤部では主に入院患者の調剤を行っている。当院は高齢の患者が多いことや難治性神経・筋疾患(神経難病と筋ジストロフィー等)病棟があることから、簡易懸濁法や一包化による調剤を積極的に行っている。医療安全に関しては、薬剤部のヒヤリ・ハット事例を分析し、複数規格医薬品、名称類似医薬品など取り違いのリスクが高い医薬品について、処方せん等の医薬品の規格の強調、医薬品名に色を着ける表示や医師がオーダ入力する際に注意喚起のメッセージが表示される工夫も実施している。

【処方せん枚数】

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
入院	24,956	20,382	22,642	24,382	23,997
外来院内	1,218	1,214	1,303	1,459	1,977
外来院外	20,971	22,220	19,418	18,814	18,614

（2）注射

注射薬は医療安全を推進する観点から、患者毎に一施用ごとの払い出しを行っている。また、取り揃え時と監査時のダブルチェックにより用法・用量等に加え投与速度及び配合変化等の確認を行っている。患者施用ごとの注射ラベル（バーコード付）を発行し、注射剤に添付して払い出ししており、実施時にバーコードによる認証を行うシステムとなっている。令和2年度は「取扱いに注意を要する薬剤マニュアル」を医療安全管理室と共同で作成、令和

3年度は「病棟での向精神薬管理手順」の改訂、令和4年度は「医薬品の安全使用のための業務手順書」の改訂を行った。

【注射せん枚数】

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
入院	31,223	23,310	25,657	27,904	27,231
外来	1,652	1,701	1,694	1,515	1,323

3. 製剤業務

業務として抗がん剤調製や特殊なT P N調製（中心静脈栄養）などの無菌調製および院内製剤を行っている。抗がん剤調製は、医療安全及び暴露防止の観点から、原則全て薬剤師が調製を行っている。抗がん剤のレジメンは外来化学療法委員会で承認されレジメン登録されたもののみ使用可能となっており、薬剤師による確認の他、システムで投与量及び休薬期間等のチェックを行っている。

【無菌調製件数】

		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
抗がん剤	入院	100	74	99	83	88
	外来	39	59	35	10	8
T P N	入院	26	12	87	82	11

4. 医薬品情報管理業務

医薬品情報については、毎月厚生労働省から発刊される「医薬品・医療機器等安全性情報」を電子カルテの掲示板にて情報提供するとともに医薬品に関連する通知等についても必要に応じ情報提供している。2017年度よりプレアボイド報告を積極的に行うことを目標に取り組んでおり、報告した事例のうち、特に注意すべき事例の内容については情報共有を行っている。

【日本病院薬剤師会へのプレアボイド報告件数】

2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
59	56	27	40	54

5. 医薬品管理業務

医薬品の採用は薬事委員会で決定することとされており、1増1減を原則としている。後発医薬品への切り替えを推進しており、新しく発売される後発医薬品を積極的に薬事委員会に提案し切り替えを行った。2022年度は12品目を後発医薬品へ切り替え、購入額を約336万円削減（薬価換算）できた。来年度においても高

額な医薬品をはじめ新規に発売される後発医薬品について随時提案して、病院経営に貢献していきたい。

今年度も昨年度に続き複数の製薬会社で医薬品回収および供給停止などが相次ぎ、その対応に苦慮した。患者に迷惑をかけることがないように日頃より情報のアンテナを張り、在庫管理を気に掛けていきたいと考える。

【医薬品採用品目数】

2021年度		2022年度	
内用薬	447（後発品：189）	内用薬	443（後発品：194）
外用薬	161（後発品：55）	外用薬	163（後発品：60）
注射薬	360（後発品：100）	注射薬	361（後発品：100）
合計	968（後発品：344）	合計	967（後発品：354）

6. 病棟業務および入院支援

病棟薬剤業務実施加算では、医師の負担軽減及びチーム医療の推進等に取り組んでいる。禁忌薬やアレルギー歴の確認、肝腎機能に応じた処方提案、持参薬に基づく当院処方の提案や処方薬に問題はないか確認を行っている。

薬剤管理指導では、主に患者が医薬品を服用した後の副作用モニタリング等を行っており、副作用に対する支持療法の処方提案、副作用を回避するための代替薬の提案、定期的な検査を必要とする薬剤に対して検査オーダーの提案などを行っている。特にハイリスク薬を服用する患者について、安全使用を念頭に実施してきた。退院時指導については、退院後の服薬管理に役立てられるよう今後も努めていきたい。

2018年度より、タスクシェアリングのひとつとして薬剤部が入院支援センターにおいて手術や観血的処置予定患者および造影検査予定患者の内服薬を把握し、中止する薬剤がないかどうかの確認を行い対応している。

【薬剤管理指導及び退院時薬剤情報管理指導件数】

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
薬剤管理指導 (ハイリスク薬)	4,598 (2,397)	4,115 (1,970)	4,425 (1,639)	4,977 (1,991)	5,042 (2,281)
退院時薬剤情報 管理指導	793	686	608	686	127

【入院支援センター薬剤師関与件数】

2020年	2021年	2022年
210	203	197

薬剤部－治験管理室－

薬剤部長 阪元 孝志

【概要】

当院の診療圏は、長崎県北部を中心に佐賀県西部地区まで広くカバーしている。また、県央地域保健医療圏の二次救急医療機関である。神経・筋疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症<以下、ALS>、進行性筋ジストロフィー症等の神経疾患）に関する専門医療施設としての診療、循環器疾患等に関する専門的な診療を行っている。

【治験管理室体制】

臨床研究部長を治験管理責任者、薬剤部長を治験管理実務責任者、治験薬剤師（CRC）2名（併任）、治験看護師（CRC）1名（併任）、非常勤事務職員1名、会計担当1名を配置している。

治験手順書、治験審査委員会等を整備し、医師、看護師、コメディカルと連携を図り、実施率100%を目標に迅速で信頼できる治験を目指している。

	職名	氏名
治験管理室長（治験管理責任者）	臨床研究部長	福留 隆泰
治験事務局長（治験管理実務責任者）	薬剤部長	阪元 孝志
治験コーディネーター	薬剤師	神代 広平
	薬剤師	糸永 昇平
	看護師	岩崎 智子
治験事務	企画課長	白石 剛
	受託・申請書等事務	柴田 さやか

【治験実施状況】

治験の実施体制を 2003 年度より整え、神経・筋疾患の治験を中心に循環器内科、脳神経内科、脳神経外科の治験を積極的に受け入れてきた。

新規治験の契約はなく、現在契約中の治験で実施症例に結びつけることができなかつたが定期的な被験者スクリーニングによる候補症例の選定を継続して行っている。

「人を対象とする 生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が統合改正-施行されたなど、近年は臨床研究を実施する環境が大きく変化しており、必要に応じて規程・書式の作成・改訂作業を行った。

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
請求金額（円）		2,433,386	2,653,088	2,252,646	1,972,762
新規	治験課題数	1	1	1	0
	契約症例数	1	1	1	0
	実施症例数	1	1	0	0
	実施率	100%	100%	0%	0%
継続	治験課題数	3	1	3	3
	契約症例数	4	1	9	4
	実施症例数	3	1	8	3
	実施率	75%	100%	89%	75%
合計		80%	100%	60%	80%

【臨床研究において積極的に行っていること】

当院は神経筋疾患では、基幹医療施設となっており、神経変性疾患（パーキンソン病及び類縁疾患、ALS、脊髄小脳変性症）や免疫性神経疾患（ギランバレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発根神経炎など）の診療を積極的に行っている。

また、地域支援病院として、脳血管障害急性期、虚血性心疾患、高血圧症、高脂血症及び糖尿病などの生活習慣病、急性肺炎、呼吸不全の増悪などの患者の受け入れも多い。

【今後の方針】

本部より定期的に行われている治験参加意向調査アンケートへの積極的な回答を継続するとともに、国立病院機構内外の共同研究および院内で独自に計画された臨床研究の推進・支援を行う。

昨年度契約を行った神経内科領域での治験において被験者スクリーニングによる候補症例の選定を継続しつつ、既存の契約課題を維持し、今後も実施率 100%を目指し、1 例でも多くの症例登録に努めていきたい。

また、研究者だけでなく組織としても高い見識と運用能力が必要とされるため職員に臨床研究 e-ラーニング研修の受講を依頼する。

診療放射線科

診療放射線技師長 中尾 徹弘

【概要】

診療放射線科は、医師2名、診療放射線技師6名と助手1名で構成されており、CT・MRIの最新の撮影装置を用いた画像診断や核医学検査等の業務を行っている。人員については、技師が1名辞職となったためローテーションや当番体制に苦慮した。放射線機器については、10月より一般撮影で使用する機器がFPD（フラットパネル）となり迅速に画像を出力することが可能となった。今後も引き続き医療安全を考慮した保守点検を実施し、神経難病の患者から救急や発熱外来患者まで幅広く対応できるよう日々研鑽し、質の高い画像情報を提供していきたい。また、地域連携病院との共同利用も促進する。

【目標】

- ① 安全で良質な地域医療の実践
 - ・ 職種間の連携強化とチーム医療の充実
 - ・ 検査の説明や相談、同意に基づく納得と信頼の医療
- ② 医療安全及び感染対策の強化
 - ・ インシデント報告の充実、医療安全対策の構築
 - ・ 感染対策の徹底
- ③ 健康増進への環境整備
 - ・ 可能な範囲内で年休取得を推進
 - ・ 快適な職場環境の形成（メンタルヘルスクエアへの取り組み）
- ④ 健全経営への活動
 - ・ 経費節減に努める

【施設基準】

画像診断管理加算2、報告書管理体制加算

【資格】

第1種放射線取扱主任者2名、第1種作業環境測定士2名、衛生工学衛生管理者1名
X線CT認定技師1名、救急撮影認定技師1名

【業績】

学会発表、論文業績等なし

【個人被ばく線量（実効線量）】

2022年3月1日～2023年2月28日

医師の最大値は術中透視での被ばく、技師の最大値は RI 患者介助での被ばく。

法令限度内の被ばく線量（平均 20mSv/年）を超える従事者は無し

単位 mSv

職種	人数	平均値	最大値	最小値
医師	11	0.2	1.0	0
放射線技師	6	0.6	0.9	0
看護師	11	0	0.1	0
臨床工学技士	2	0	0	0

【件数実績】（共同利用件数）

年度	CT	MR	RI	一般撮影	透視
R2	3432 (267)	2380 (581)	123 (3)	6389	142
R3	3913 (329)	2357 (623)	144(12)	6203	158
R4	3370 (202)	2251 (511)	127(10)	5821	152

臨床検査

臨床検査技師長 石原 幸治

I. 概要・体制

スタッフは科長以下、9名の臨床検査技師（技師長1、副技師長1、主任3、技師4）が検体検査・微生物・生理検査の3部門に分かれ業務を行っている。R4年度の異動は2名であった。各種認定資格取得者を配置、迅速かつ精度の高いデータ提供に努め、部署間のサポート体制をより強化した。COVID-19の感染拡大、院内クラスター防止対策として、ピーク時にはICTと連携して休日のPCR検査対応も行った。

機器については血液ガス、赤血球沈降速度検査が更新されたが、まだ導入後10年以上経過している機器が3機（超音波検査機器、輸血検査機器、血糖関連機器）稼働しており不安が拭えない状況。早めの更新を願っている。

【認定資格取得者】

資格	取得者数
細胞検査士（国内、国際）	1名
認定輸血検査技師	1名
認定心電検査技師	2名
超音波検査士（循環器）	4名
”（消化器）	2名
”（体表臓器）	2名
有機溶剤作業主任者	3名
特定化学物質等作業主任者	2名

II. 状況

1. 外部精度管理

日本医師会、長崎県医師会、メーカーサーベイ等、外部精度管理調査を受審し、検体検査の精度管理に努めている。

【日本医師会精度管理結果】

	評価評点	C評価	D評価
令和2年度	99.0	0	0
令和3年度	98.7	0	0
令和4年度	99.2	0	0

2. 件数実績

【検体検査】（入院＋外来）

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
検体検査	290,486	309,566	311,528
一般	9,335	9,343	9,416
血液	36,584	39,110	35,445
生化学・内分泌	224,647	234,071	238,294
免疫	15,955	21,980	24,048
微生物	3,963	5,061	4,324
その他	2	1	1
外部委託	4,513	4,351	4,430

【生理検査】（入院＋外来）

		2020 年度	2021 年度	2022 年度
生理検査		5,461	5,793	5,779
超音波検査	心臓	1,010	1,107	909
	頸動脈	221	229	243
	腹部	391	414	427
	乳腺	49	49	46
	甲状腺	142	166	158
	下肢静脈	184	220	238
	体表、その他	106	134	174

【COVID-19 検査】（PCR、TRC、ID NOW）

	2021 年度	2022 年度
入院	1,441	2,362
外来	4,840	6,557
職員	6,136	7,032

3. 業績等

検査科内での勉強会を月 1 回実施。

学会発表、論文等なし。

リハビリテーション科

理学療法士長 今村奈那

《リハビリテーション科理念》

地域に根付き、家庭・社会への復帰を目指した総合的なリハビリテーションの提供をめざします。

《目標》

- 1) 包括病棟のリハビリ基準を達成し、病棟機能の維持を図る
- 2) 診療報酬に基づいた適正な診療を実施する
- 3) リハビリテーション実績の向上に取り組む
- 4) 他部門との連携強化を図り、質の高いリハビリテーションを提供する
- 5) 感染対策や医療安全について理解し、安全なリハビリテーションを提供する
- 6) 学会への積極的な参加・発表など自己研鑽を図る

スタッフ

リハ科医長(兼任) : 1名

定員 理学療法士 : 10名 作業療法士 : 5名 言語聴覚士 : 3名

非常勤職員(助手)1名

施設基準

脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) 廃用症候群リハビリテーション料 (I)

運動器疾患リハビリテーション料 (I) 呼吸器疾患リハビリテーション料 (I)

がん患者リハビリテーション料 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)

週間スケジュール

- ・神経内科病棟カンファレンス (毎週金曜 15:00～)
- ・包括病棟カンファレンス(毎週水曜 8:40～)

・心臓リハビリテーションカンファレンス（隔週水曜 16：30～）

主な対象疾患と特色

対象疾患：神経・筋疾患、整形疾患、脳卒中、呼吸器疾患、外科術前後、脳外科術前後、心不全

特色：神経筋疾患の基幹施設であるため、治療・検査・レスパイト目的に入院された難病患者的のリハビリを実施している。また、脳卒中・整形外科疾患等に早期リハビリを実施している。

外科術後・がん・神経・筋疾患患者への呼吸リハビリテーション、摂食・嚥下障害に対する摂食・嚥下リハビリテーション、神経筋疾患患者への意思伝達装置の調整、訪問リハビリテーション、心臓リハビリテーションを実施している。地域包括ケア病棟のリハビリテーションを有し、対象者に対して集中的なりハビリテーションを実施している。

2022年度診療実績

	疾患別件数（件）	疾患別単位数（単位）	療法士 1日平均単位
理学療法	16,849	32,508	15.9
作業療法	8,530	17,461	16.3
言語聴覚療法	疾患別：5,658 摂食機能訓練：6	8,564	14.4
訪問リハビリテーション	365	744	

施設内活動への参加状況

管理診療会議、月次評価会議、医療安全部会、医療安全推進部会、NST委員会、療養介護運営委員会、ICT部会など

研究・発表活動

【学会発表】

第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 2022年6月11日開催

演題：「心臓血管外科周術期における超音波診断装置を用いた横隔膜機能評価

—横隔膜筋鈎の経時的変化とその特性— 演者：山田竜一郎

第 8 回 日本糖尿病理学療法学会学術大会 2022 年 9 月 4 日開催

演題：「身体組成からみた糖尿病教育入院患者における理学療法の介入効果」

演者：山田竜一郎

【研修会講義】

共同研究をみんなで考える会 サマーセミナー 2022 年 5 月 20 日開催

演題：「心臓外科周術期における超音波診断装置を用いた横隔膜機能評価に関する研究」

講師：山田竜一郎

共同研究をみんなで考える会 サマーセミナー 2023 年 1 月 17 日開催

演題：「Increased expression of Toll-like receptor 3 in intrahepatic biliary epithelial cells at sites of ductular reaction in diseased livers」

講師：福川愛子

【査読】

九州理学療法士学術大会 2022 2022 年 11 月 26-27 日開催 (査読委員：山田竜一郎)

他 リハビリテーション科内勉強会(月 1 回)

連休等の対応

土曜日は二人体制で出勤 長期連休は交代で出勤 (連日ではない)

栄養管理室

栄養管理室長 金子友美

1. 概要

スタッフは管理栄養士（栄養管理室長、栄養係）計2名。業務内容は入院患者の食事療養（食事提供）、栄養管理、入院・外来患者への栄養食事指導、食事形態の調整や食欲不振等患者の対応、栄養サポートチーム（NST：Nutrition Support Team）の運営・活動等、多岐にわたっている。またチーム医療として褥瘡チーム、緩和ケアチームにも参画した。食事提供などの給食管理業務は令和4年度より全面委託で運営している。

2. 業務実績

①食事サービス

I.献立には季節ごとの野菜や果物、魚を随時取り入れた。その中で毎月行事食として季節に合わせた食事の提供を行い、献立内容の充実や特別治療食への提供を拡大した。また患者から希望が多かったメニューの導入を図り、食事満足度を高める工夫を行った。そのため、患者への食事アンケートでは、多くの方より「食事に満足している」という意見を頂いた。

行事食で提供するデザートは糖尿病などエネルギー調整が必要な患者に対しては低カロリー甘味料などを使用し手作りで行っている。（水羊羹、チョコレートムースなど）喫食調査ではとても好評いただいている。

2022年度行事食写真



紫陽花御膳



七夕



秋御膳



クリスマス



ひな祭り



春御膳

II 嚥下食の充実を図るべく、嚥下キザミとろみ食を新設し、摂食嚥下リハビリテーション学会分類に沿った食事提供を実践している（学会分類 0j～4）。その際、とろみの濃度、ミキサー粥作成、お茶ゼリー作成などの標準化を図り、安全な食事提供のために積極的な取り組みを行った。

嚥下食一覧表

2023/1/11

嚥下開始食（嚥下学会分類0j）	嚥下訓練食Ⅰ（1j）	嚥下訓練食Ⅱ（1j）	嚥下ミキサー食（2-1・2-2）
エンゲリード お茶ゼリー	エブリッチ やわらか倶楽部 トウフィール お茶ゼリー	全粥ミキサー（ゲル化剤使用） エブリッチ やわらか倶楽部 トウフィール お茶ゼリー	全粥ミキサー（ゲル化剤使用） 主菜（ゲル化剤使用） 副菜2品（ゲル化剤使用） 佃煮or ねり梅 お茶ゼリー
			

嚥下キザミとろみ食（3）	ソフト食（4）
主食：全粥 副食：ソフト食 きざみ・とろみをつける （とろみ剤使用）	主食：全粥・軟飯 主菜・副菜とも柔らかく 煮たもの。それと同等のもの
	



ヘルシーネットワーク はつらつ食品P29より引用

②栄養食事指導件数

2022年度個人栄養食事指導は827件実施。指導疾患は糖尿病、心臓病、高血圧症が多かった。集団栄養食事指導として、糖尿病教室を管理栄養士・看護師・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師とともに毎週1回実施していたが、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となっている。

【栄養食事指導件数】

個人指導				合計
算定		非算定		
入院	外来	入院	外来	
582	138	105	2	827

【管理栄養士による栄養指導代行入力実施件数】

診療科	提案件数	診療科	提案件数
脳神経内科	139	消化器内科	26
循環器内科	62	脳神経外科	9
外科	62	皮膚科	6
総合診療内科	58	代謝内科	2
整形外科	33	合計	397

【疾患別栄養食事指導件数】

疾患	件数	疾患	件数
糖尿病	303	肥満	9
心臓病	172	消化器疾患	9
高血圧症	146	消化器術後	7
がん	55	痛風	6
脂質異常症	44	胃・十二指腸潰瘍	6
腎臓病	17	クローン病・潰瘍性大腸炎	4
肝臓病	17	膵臓病	3
低栄養	11	貧血	3
摂食嚥下障害	10	その他	5

③特別食加算率

加算率は 25.0%であった。提供数が多かった特別食は糖尿病食、心臓病食だった。

食事療養数	普通食	非加算特別食	加算特別食	加算率 (%)
204,068	25,614	127,369	51,085	25.0%

【管理栄養士から加算特別食提案件数】

診療科	提案件数	変更実施	変更率 (%)
脳神経内科	9	8	88.9
外科	17	17	100.0
整形外科	6	6	100.0
循環器内科	4	4	100.0
総合診療内科	14	14	100.0
代謝内科	2	2	100.0
脳神経外科	6	6	100.0
消化器内科	2	2	100.0
合計	60	59	98.3

特別食加算の漏れがないよう入院時・入院中に特別食該当患者を抽出し、主治医へ主に ToDo メールで連絡。提案件数は 60 件で実際に食種変更があったのは 59 件、変更率は 98.3%だった

【変更できなかった理由】 提案後すぐに退院 1 名

④患者食糧費経理状況

令和 4 年度は食材料単価の高騰を踏まえ、経費削減のための対策を検討。廃棄処分の食材を極力減らすべく、発注変更や食材選択、さらに献立作成においても適切な食品選択、食材単価をみながら献立調整を行い、適正価格での食事提供に努めた。

年間消費額	1 食あたりの実行単価
51,964,027 円	254.64 円

3. 学会発表・講演会

九州国立病院管理栄養士協議会研修会 2023. 3. 11 演題『早期栄養介入管理加算と 部門の運営・経営』
座長 金子友美

臨床研究部

臨床研究部長 福留 隆泰

1-1 治験

・二次性全般化発作を含む部分発作を有する 16 歳以上のてんかん患者に対する BRIVARACETAM 併用投与における長期安全性及び有効性を評価するための非盲検、多施設共同、長期継続投与試験（戸田）

・全身型重症筋無力症患者を対象としたサトラリズマブの有効性,安全性,薬物動態及び薬力学を評価するための第 III 相ランダム化二重盲検プラセボ対照多施設共同試験（福留）

1-1 EBM

なし

1-2 機構研究症例数

・簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効率的なハイリスク患者抽出方法の確立（採択番号 H30-NHO(循環)-03）（二宮）

・大規模糖尿病・肥満症コホートを生かした認知機能低下・認知症発症の予知因子の解明（JOMS/J-DOS2）-長期追跡調査-（採択番号：H29-NHO（糖尿）-01）（二宮）

・慢性心不全患者の新しい再入院リスク評価法の確立（二宮）

・神経核内封入体病（Neuronal Intranuclear Inclusion Disease）に関する全国疫学調査および臨床像の確立（採択番号：H31-NHO(神経)-02）（福留）

2 競争的資金

・MuSK 活性化剤の生物活性・毒性評価および筋無力症動物モデルを用いた POC の確立（樋口・分担）・AMED

・エピトープ解析（樋口・分担）・日本医大

・診断基準策定、国際的な総意形成、自己抗体測定に係るコンサルテーション（樋口・分担）・日本医大

・スモンに関する調査研究班（福留・分担）・厚労省

・全国調査推進、診断基準策定（松尾秀徳・分担）・日本医大

・データ分析、企業との共同研究を模索（松尾秀徳・分担）・日本医大

3 特許

なし

4-0 業績発表（英文）

1 Matsumura T, Hashimoto H, Sekimizu M, Saito AM, Motoyoshi Y, Nakamura A, Kuru S, Fukudome T, Segawa K, Takahashi T, Tamura T, Komori T, Watanabe C, Asakura M, Kimura K, Iwata Y.

Tranilast for advanced heart failure in patients with muscular dystrophy: a single-arm, open-label, multicenter study.

Orphanet Journal of rare diseases (IF 4.303)

- 2 Tanaka K, **Nagaishi A**, Matsui M. Autoimmunity to ion channels in neurological diseases- Autoimmunity to aquaporin water channels. Neurology and Clinical Neuroscience(IF 0.50)
- 3 Lin YW, Oji S, Miyamoto K, **Narita T**, Kameyama M, Matsuo H. Real-world application of plasmapheresis for neurological disease: Results from the Japan-Plasmapheresis Outcome and Practice Patterns Study. Therapeutic apheresis and dialysis(IF 2.195)
- 4 Uchida D, Ono T, Honda R, Watanabe Y, **Toda K**, Baba S, Matsuo T, Baba H. Asymmetric epileptic spasms after corpus callosotomy in children with West syndrome may be a good indicator for unilateral epileptic focus and subsequent resective surgery (IF 6.1)
- 5 Hayashi T, Nakane S, Mukaino A, **Higuchi O**, Yamakawa M, Matsuo H, Kimura K. Effectiveness of treatment for 31 patients with seropositive autoimmune autonomic ganglionopathy in Japan. Therapeutic Advances in Neurological Disorders (IF 6.570)
- 6 Kinoshita T, Matsumoto T, Taura N, Usui T, **Matsuya N**, Nishiguchi M, Horita H, Nakao K. Public Interest and Accessibility of Telehealth in Japan: Retrospective Analysis Using Google Trends and National Surveillance. JMIR formative research (IF 2.1)
- 7 Nagaoka A, Tsujino A, Shiraishi H, Kanamoto T, Shima T, Yoshimura S, Miyazaki T, Tateishi Y, Tsujihata M, Motomura M, Maxwell S, **Higuchi O**, Beeson D, Vincent A. Motor end-plate analysis to diagnose immune-mediated myasthenia gravis in seronegative patients. Journal of Neurological Science (IF 4.533)
- 8 Narita T, Nakane S, **Nagaishi A**, Minami N, Niino M, Kawaguchi N, Murai H, Kira JI, Shimizu J, Iwasa K, Yoshikawa H, Hatanaka Y, Sonoo M, Shimizu Y, Matsuo H. Immunotherapy for ocular myasthenia gravis: an observational study in Japan. Therapeutic Advances Neurological Disorders (IF 6.570)

4-1 業績発表 (和文)

- 1 樋口理, 中根俊成. 診療に役立つ免疫神経疾患の自己抗体測定法とその解釈. 日本臨床 増刊 5 2022 年
- 2 中根俊成, 樋口理. 脱髄以外の末梢神経免疫疾患 自己免疫性自立神経節障害、急性自立神経性感覚性ニューロパチー. 日本臨床 増刊 5 2022 年

4-2 業績発表 (学会発表)

- 1 二宮 暁代 心窩部痛精査の造影 CT で蛇行のみだった脾動脈の動脈瘤破裂を来したエーラス・ダンロス症候群疑いの 1 例 第 132 回循環器学会九州地方会
- 2 川原 知瑛子 九州地区多施設共同超音波コホート研究 (KUDOS) を用いた高齢者関節リウマチの解析 第 64 回九州リウマチ学会

- 3 松本 章子 黄疸出血性レプトスピラ症の一例 第 340 回日本内科学会九州支部例会
- 4 戸田 啓介 Directional lead を用いたパーキンソン病に対する脳深部刺激療法 第 43 回長崎脳神経外科研究会
- 5 熊谷 謙治 40 歳代の脛骨に発生した骨線維性異形成 第 55 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会
- 6 吉原 聖智 めまい、嚥下機能障害を主訴に診断に至った外耳道癌の一例 日本内科学会九州支部主催 第 340 回九州地方会
- 7 植松 弥生 神経筋難病患者に関わる医療者の困難感とやりがい ～筋ジストロフィー病棟の看護師として日々感じること～ 第 76 回国立病院総合医学会
- 8 佐藤 未千世 当院における AST 活動報告－多職種連携による薬剤師の役割－ 令和 4 年度佐賀・長崎地区国立病院薬剤師会薬学研究会
- 9 山田 竜一郎 身体組成からみた糖尿病教育入院患者における理学療法の介入効果 第 8 回日本糖尿病理学療法学会学術大会

医療相談支援センター－地域医療連携室－

看護師長名 富永 文子

基本方針

1. 患者の安心安全を考慮した退院調整と前方連携の実施
2. 患者のための多職種チーム医療の実践

目標

1. 患者・家族の思いを尊重した退院支援、退院調整を実施する
2. 組織の一員として病院経営の安定化に向けた経営参画ができる
3. 外部評価（病院機能評価）受審に向け、外来から入院、退院へと医療チームでの連携を図る
4. 退院支援、退院調整の知識向上と接遇向上を図る

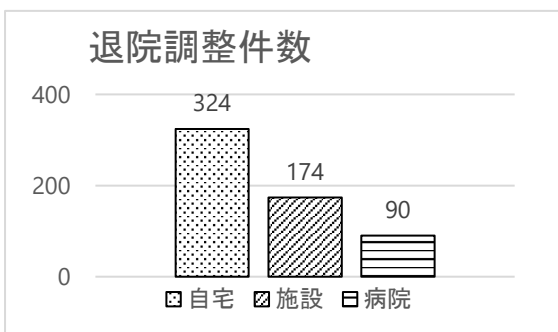
I. 患者の動向 (2022 年度)

診療予約件数	1861 件
共同利用件数 CT	211 件
MRI	521 件
内視鏡	99 件
その他	33 件
入退院支援加算 1 (700 点)	528 件
介護支援等連携指導料 (400 点)	31 件
多機関共同指導加算 (2000 点)	1 件
支援相談件数	586 件
入院支援センター介入件数	556 件
転院受入れ相談件数	84 件

II. 看護職員等数 (2023年4月1日)

看護師長	1名
看護師	3名
医療社会事業専門員	2名
事務助手（看護部）	1名
事務助手（事務助手）	2名

III. 退院調整先一覧



IV. 紹介率・逆紹介率、

あじさいネット登録患者数

(2022年度)

紹介率（50%以上）	71.0%
逆紹介率（70%以上）	96.9%
あじさいネット登録患者数	233件

V. 看護

1. 退院支援スクリーニングにて退院困難要因を抽出し、患者・家族の意向に添う退院に繋がるよう患者・家族と面談し入退院支援を実践した。病棟看護師と患者を在宅の視点でとらえ日頃のケアを実践していくことが重要でカンファレンス時に情報共有し取り組んだ

2. 退院支援スクリーニングの実施率は98～100%で入退院支援が必要な患者に対しては、患者の意向を確認し病棟と地域との連携を行い退院支援・退院調整をすすめ加算取得に繋げた。地域の担当者と患者の退院に関する情報共有を実施することで安心に繋がる退院調整を実施し加算に繋げた。
3. 外部評価受審に向け、部署内で評価項目の自己チェックを実施し未達成項目について洗い出しを行った。チーム医療連携に関して多職種との協働が必要なため、充実に向けて取り組む必要がある。
4. 退院支援マニュアルに沿ってタイムリーな入退院支援を実践した。患者個々で意向や方向性など違うため、部署内や地域との情報共有や自己研鑽で視野を広げ、知識の向上に努めた。接遇向上に対して、接遇自己評価と他者評価を実施し言葉使いや正しい敬語の使用について学び実践した。

VI. 研修受講

富永文子（看護師長）：入退院支援に関する実践能力向上研修 実習後フォローアップ研修 講師

岩崎智子（看護師）：令和4年度 治験研修

危機管理センター — 医療安全管理室 —

医療安全管理室 坂上 睦子

基本方針

1. 医療安全に対する職場風土の醸成
 - 1) 病院職員のリスク感性を高めるための活動・人材育成
 - 2) “人は間違えるものである”という認識を持ち、継続した教育とシステム改善
2. 患者参加型のチーム医療の実践

目標

1. 医療安全ラウンドを定期的実施し、安全な環境整備、ルール遵守の体制を整えることができる
2. 病院機能評価受審に向け医療安全マニュアルを整備し、マニュアルに沿った行動ができる

I. インシデント状況

1. 発生件数（件）

年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
件数	567	470	445

2. レベル別件数（件）

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
ヒヤリ			
0	98	20	63
1	257	128	108
2	176	203	179
3a	32	65	57
3b	4	15	15
4 以上	0	0	0

評価困難	0	2	15
------	---	---	----

3. 主な内容（件）

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
与薬	91	52	56
点滴注射	35	25	24
処置関連	35	14	9
検査関連	46	24	48
チューブ	39	42	36
人工呼吸器関連	26	4	7
転倒転落	122	135	94
療養上世話	28	18	14
皮膚損傷	36	31	24
患者誤認関連	15	8	9

4. レベル 3b 事例 15 件

- ① 転倒転落に関する事 9 件
- ② ドレーン・チューブに関する事 3 件
- ③ 療養上の世話に関する事 2 件
- ④ 手術・麻酔・処置等に関する事 1 件

II. 評価

1. 推進担当者として自部署のラウンドを定期的実施・改善するよう計画したが、自主性に欠け会議時間内のラウンドのみとなった。部署の特殊性を考慮した項目及び全部署共通の項目を挙げ、全部署医療安全ラウンドチェックシートを作成できた。なぜそうするのかといった根拠を理解させ、医療安全の視点を培うまでに至っていない。患者誤認防止、個人情報保護については、ラウンドを実施することでその意識は高まりつつある。指差呼称確認は習慣化できていない。

2. マニュアルは、全部署に割り振り 9 月と 12 月を期限として見直しを行ったが、改訂作業及び整備ができていない。緊急性のある内容についてはその都度改訂し職場長を通して周知を図った。

Ⅲ. 医療安全相互チェックおよび医療安全管理者会議

1. NHO 医療安全相互チェック

2022 年 9 月、オンライン

2. 地域連携における相互チェック

2022 年 10 月 加算 2 訪問

2022 年 12 月 加算 1 訪問

3. 佐賀県・長崎県小グループ医療安全管理者会議

対面・メールによる意見交換、情報共有

Ⅳ. 学会発表

なし

危機管理センター — 感染管理 —

感染管理認定看護師 内野 めぐみ

基本方針

感染対策室は、医療行為に関連した病院感染症の予防と制圧および医療従事者の職業上の安全と健康を担当する部門であり、病院内のすべての領域に関与して横断的な活動を展開する役割を担っている。

I. 実績

1. 入院患者の感染対策

	2023年3月現在
血液培養2セット実施率	95.79%
広域抗菌薬適正使用時の細菌培養実施率	82.35%
手術開始前1時間以内の予防的抗菌薬投与率	100%

2. 施設基準など取得状況（2023年3月現在）

- ・感染対策向上加算 2 175点
- ・連携強化加算 30点
- ・サーベイランス強化加算 5点

II. 感染対策に関する教育・研修

1. 2022年度新採用者教育

2. 感染管理に関する院内教育（看護補助者研修）

3. 手指衛生の啓発 各月・毎週の手指消毒薬使用量を集計し、各部署に結果をフィードバック

4. 個人防護具着脱手順の指導とチェック表に基づいた確認の実施

Ⅲ. 病院職員の健康管理

- 1.新採用者・異動者の4種価抗体チェック
- 2.季節性インフルエンザワクチン接種
- 3.新型コロナワクチン接種
- 4.総合診療内科医師、JNP、6階病棟、8病棟、訪問看護ステーション、外来看護師、手術室看護師は定期的にPCR検査実施
- 5.体調不良者のPCR検査調整

Ⅳ. 感染発生の動向監査

- 1.1回/週、ICTメンバーが院内巡視活動を実施し、感染対策実施の確認と指導を行っている。
- 2.手術部位感染サーベイランス（JANIS）2021年度手術部位感染発生件数6件
- 3.医療の質向上のための体制整備事業（医療の質可視化プロジェクト）感染管理（3指標）参加。入院患者の感染対策実績に記載。
- 4.感染対策連携共通プラットフォーム（J-SIPHE）手指消毒遵守率76-100%

Ⅴ. 抗菌薬の適正使用

抗菌薬適正使用チームが発足し、薬剤師が中心となり、特定抗菌薬の届出患者の確認、適正使用に対する相談と2週間以上の長期投与患者がないか週に1回カンファレンスした。

介入件数47件（2023年2月現在）

Ⅵ. 加算施設との合同カンファレンス

地域連携加算施設と年4回WEBにて合同カンファレンスを実施した。新型コロナウイルス感染対策に関する机上訓練、院内発生クラスターなど各施設の対応について情報共有した。地域連携指導強化加算連携のため加算1施設と合同で環境ラウンドを年2回実施した。消毒薬の管理や物品定数の見直し、整理整頓など指摘事項を院内全体で情報共有し改善する必要がある。

Ⅶ. 感染対策のための職員研修

開催日	テーマ	講師	受講率
2022年9月8日～10月7日	「新型コロナ感染症Q & Aについて」	ICN	100%
2023年2月10日～3月31日	「グリッターバグを用いた手洗いチェック」	感染対策室	98%

医療機器管理室

医療機器管理室長 津田 真実

臨床工学技士業務、実施件数報告

臨床工学技士 2 名在籍。

主な業務:

医療機器管理室内の業務(医療機器の管理・点検など)、血液浄化業務、手術室業務、ペースメーカー関連業務、使用中の人工呼吸器管理、勉強会・説明会開催など

① 医療機器管理(貸出・返却・点検)

・貸出し前点検、定期点検、修理(メーカー手配合含む)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
保守点検 修理業務	貸出	60	72	43	68	54	55	85	47	56	61	36	55	692
		68	61	69	76	74	94	127	85	62	79	43	81	919
	返却	75	74	75	62	61	58	64	52	54	60	52	61	748
		51	84	73	62	91	86	114	73	64	70	36	73	877
	貸出前点検	78	62	55	68	60	57	71	46	55	60	49	68	729
		56	79	67	63	93	76	141	70	66	72	40	78	901
	定期点検	12	24	25	14	2	6	6	10	8	41	27	26	201
		10	23	15	14	42	9	10	5	8	15	7	23	181
	修理	4	2	4	4	0	1	0	0	0	4	2	1	22
		0	0	1	0	0	0	3	1	0	0	0	0	5

※赤文字:2022年度、灰色背景:2021年度

② 手術室

・DBS、ITB、VNS など手術立ち合い

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
DBS (脳深部刺激療法)	新規植込み	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	1	5
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	IPG交換	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	1	6
ITB (バクロフェン髄注療法)	IPG交換	6	2	1	3	1	1	1	2	3	3	3	2	28
		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	リフィル	1	0	1	1	0	2	1	0	1	1	1	2	11
VNS (迷走神経刺激療法)	新規植込み	2	0	0	2	0	0	1	0	1	1	1	2	10
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	IPG交換	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
		2	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	6

※赤文字:2022年度、灰色背景:2021年度

③ 血液浄化業務 (アフレスィス業務)

単純血漿交換、CHDF、PMX、腹水濾過濃縮再静注法、GCAP

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
血液浄化 業務	単純血漿交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	J039:4,200点	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
	CHDF(日数)	0	1	0	2	0	0	2	0	9	0	0	0	14
	J038-2:1,990点	0	1	0	0	0	4	2	0	2	0	0	5	14
	PMX	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	3
	J041:2,000点	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	腹水濾過濃縮	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	K635:4,990点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
GCAP	0	0	1	6	4	0	0	0	0	0	0	0	11	
J041-2:2000点	0	7	0	0	1	5	4	2	8	2	4	4	37	

※赤文字:2022年度、灰色背景:2021年度

④ 人工呼吸器管理業務

- ・ 回路交換後の確認(8病棟は2回/週)
- ・ 人工呼吸器の設定や動作確認(10~40件/日)
- ・ トラブル対応

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
人工呼吸器 管理業務	ラウンド	425	415	361	387	433	273	351	376	374	336	388	240	4359
		553	596	789	490	707	616	438	526	475	535	381	501	6607

※赤文字:2022年度、灰色背景:2021年度

⑤ ペースメーカー関連業務

- ・ 植込み、交換時の立会い(プログラマー操作等)
- ・ 外来のフォローアップ(5~6人/週)(毎週金曜 9:00~12:00)
- ・ 他科手術時設定変更など

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
ペースメーカー 関連業務	外来 フォローアップ	15	22	21	21	12	7	12	20	21	16	9	13	189
		20	18	19	21	12	15	14	22	20	17	14	8	200
	入替術後チェック	0	0	1	3	1	1	0	0	0	5	0	0	11
		2	2	6	0	0	1	1	5	2	0	0	1	20
	手術立会い	0	0	1	2	0	0	0	0	0	6	0	0	9
		2	1	5	0	0	1	1	1	1	0	1	1	14
	MRI立会い	1	1	3	2	0	1	0	1	0	0	1	0	10
		1	1	3	0	2	0	1	1	3	1	1	0	14

※赤文字:2022年度、灰色背景:2021年度

⑥ 医療機器安全使用研修会

・勉強会、説明会の実施

感染対策のため、対面による研修に加え、動画を作成し、eラーニングシステムによる研修を行った。

2022年度の実施件数 22回(人工呼吸器関係 16回、その他 6回)、動画 12本

・対面による研修

日時	場所	内容	対象者	参加者数
4月13日(水)14:00~15:00	8病棟	人工呼吸器とは	看護師	2名
4月20日(水)13:30~13:50	7病棟	トリロジーEvoについて	看護師	3名
4月20日(水)14:00~15:00	8病棟	NPPVについて	看護師	2名
4月20日(水)16:00~17:00	8病棟	人工呼吸器アラーム対応について	看護師	2名
4月27日(水)14:00~15:30	8病棟	トリロジーEvo、モード、アラームについて	看護師	2名
5月11日(水)14:15~15:40	8病棟	人工呼吸器モナール、モードについて	看護師	2名
5月18日(水)14:00~15:00	8病棟	人工呼吸器トリロジー、BVMについて	看護師	2名
5月25日(水)14:00~15:00	8病棟	人工呼吸器モナール、呼気弁対応など	看護師	2名
6月1日(水)15:00~15:30	8病棟	人工呼吸器復習小テスト	看護師	2名
6月13日(月)14:00~14:30	救急外来	除細動器の取扱について	看護師	5名
6月14日(火)8:45~8:55	1Fリハ室	AEDの使用方法について	リハスタッフ	10名
6月14日(火)16:30~16:45	生理検査室	AEDの使用方法について	検査技師	5名
6月21日(火)14:00~14:30	救急外来	JMS輸液ポンプ・シリンジポンプについて	看護師	3名
6月27日(月)15:00~15:15	放射線科	AEDの使用方法について	放科スタッフ	8名
7月26日(火)12:00~12:30	8病棟	人工呼吸器パラパック、BVMについて	看護師	1名
9月22日(水)16:00~17:00	4階病棟	人工呼吸器トリロジーEvoについて	看護師	2名
9月28日(水)14:30~15:30	6階病棟	人工呼吸器アラーム対応について	看護師	1名
10月7日(金)16:00~16:20	4階病棟	AEDの使用方法について	看護師	6名
1月12日(木)10:30~11:00	8病棟	人工呼吸器モナールについて	看護師	1名
2月1日(水)10:00~11:00	8病棟	人工呼吸器モナール/Evoについて	看護師	2名
3月1日(水)10:00~11:00	8病棟	人工呼吸器モナール/Evoについて	看護師	2名
3月9日(木)15:00~16:00	6階病棟	人工呼吸器トリロジーEvoについて	看護師	2名

・eラーニングシステムによる動画研修

視聴期間:2022年7月1日(金)~2023年3月31日(金)

内容	対象者	視聴者数
輸液ポンプ(JMS OT-808)の取扱について	医師/看護師/その他医療職	7名
輸液ポンプ(テルモ TE-131)の取り扱いについて	医師/看護師/その他医療職	6名
除細動器(事後、除細動波形印刷手順)について	医師/看護師/その他医療職	6名
シリンジポンプ(テルモ TE-351)の取扱について	医師/看護師/その他医療職	6名
シリンジポンプ(JMS SP-120)の取扱について	医師/看護師/その他医療職	7名
人工呼吸器(NKV-550)の取扱について	医師/看護師/その他医療職	5名
除細動器(TEC-5600)の取扱について	医師/看護師/その他医療職	5名
ベッドサイドモニタ(OP室用)の取扱について	医師/看護師/その他医療職	5名
セントラルモニタ(6階病棟)の取扱について	医師/看護師/その他医療職	2名
セントラルモニタ(3階、4階、6階病棟用)の取扱について	医師/看護師/その他医療職	3名
AEDの取扱について	全職員	36名
人工呼吸器(サーボS)の取扱について	医師/看護師/その他医療職	5名

資格等について

1) 所有資格・認定

認定・資格	取得人数	認定学会名
臨床 ME 専門認定士	1	日本生体医工学会 日本医療機器学会
医療機器情報コミュニケーター	1	日本医療機器学会
日本アフェレンス学会認定技士	1	日本アフェレンス学会
3 学会合同呼吸療法認定士	1	日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会
第 1 種 ME 技術者	1	日本生体医工学会
第 2 種 ME 技術者	2	日本生体医工学会
BLS ヘルスケアプロバイダー	1	長崎 ACLS トレーニングサイト

2) 所属学会

所属学会	役職
日本アフェレンス学会	評議員(2023 年総会まで)
日本臨床工学技士会	
日本心血管インターベンション治療学会	

事務部 —管理課—

令和4年度 病院行事

	一般行事	その他
4月	辞令交付式 (4/1) 転入者・新採用者オリエンテーション (4/4) 永年勤続表彰 (4/12)	
5月		
6月	一般健康診断 (6/6~10) 地域医療支援病院運営委員会 (6/23) 看護職員採用試験(6/25) 1回目	
7月		
8月	患者満足度調査 (入院 7/15~8/14、外来 8/3~4)	
9月	病院間医療安全相互チェック (9/16) 地域医療支援病院運営委員会 (9/22) ストレスチェック (9/22~10/12)	
10月	看護職員採用試験(10/1) 2回目 国立病院総合医学会 (10/7~8) 幹部看護師任用候補者選考試験 (10/21) ※オンライン	
11月	税務監査 (11/8~9) 地域医療支援病院運営委員会 (11/24)	
12月	病院間医療安全相互チェック (12/2 及び 9) 看護職員採用試験(12/10) 3回目 特殊健康診断 (12/12~16)	
1月	医療監視 (1/10) ※書面検査	
2月	監査法人期中監査 (2/9~10) 地域医療支援病院運営委員会 (2/16)	
3月	九州グループ主催看護師就職説明会 福岡 (3/11) 九州グループ主催看護師就職説明会 長崎 (3/18) 辞令交付式 (3/31)	

事務部 一企画課一

2022年度 医療機器等契約状況一覧

機器等区分	機器名	メーカー	規格	数量	契約(予定)月等	更新 新規 増設	備 考
					納品月		
CR装置	DR撮影システム	富士フイルムメディカル	CALNEO smart	1	R4.10	更新	
その他	自動採血管準備装置	シスメックス	BC-ROBO	1	R4.6	更新	
その他	自動血液培養分析装置	ピオメリユ	バクテアラート3D	1	R4.5	更新	
その他	外科手術用内視鏡システム	オリンパス	VISERA ELITE II	1	R4.7	更新	
超音洗浄機	ウォッシュャーデイスインフェクター	ゲティンゲグループ ジャパン	46-4-502	1	R4.8	更新	
血液ガス自動分析装置	血液ガス分析装置	ラジオメーター	ABL800FLEXシステム	1	R5.3	更新	
合 計				6			